

千葉市地域文化財候補

千葉市ゆかりの家・いなげ（旧武見家住宅）



<主屋>



<茶室>

- (1) 種 別 有形文化財（建造物）
- (2) 員 数 2 棟（主屋・茶室）
- (3) 所 在 地 千葉市稲毛区稲毛 1 丁目 1 6 番 1 2
- (4) 所 有 者 千葉市
- (5) 所有者住所 千葉市中央区千葉港 1 番 1 号
- (6) 適用基準 市内の地域にとって歴史的に価値のあるもので、地域を知る上で必要なもの
- (7) 時 代 建築年 大正 2 年（推定）
- (8) 説 明 明治中期以降、避暑地として多くの文人墨客が訪れた稲毛は、海岸線の松林を中心に、別荘・別邸が建てられた。この建物もその一つで、大正から昭和初期の特色をもつ木造平屋建瓦葺和風住宅である。

平成 8 年度に武見氏より市が取得し整備工事を行った後、平成 9 年 4 月から「千葉市ゆかりの家・いなげ」として公開している。

屋敷は、平屋の主屋と庭の茶室からなる。主屋は、棟を矩の手に回し、入母屋の破風を南と東にそれぞれ見せる。室内の意匠は、障子を漆塗りの枠で腰付きとし、長押を回して欄間を菱格子で飾り、天井を高く格天井で張る。居間には洋間が付いているが、屋根の形状、取り合い柱の納まりから、のちに増築されたものであると考えられる。茶室は、外壁が主屋の洋間のものと同じ板壁としていることから、洋間を増築した時期に造られたと推定される。室内は、6 畳に床を付け、床脇の棚にはいわゆる木瓜窓を開けるなど、洒落た意匠となっている。

全体として改造が少なく、大正時代初期の意匠をよく伝えており、また、愛新覚羅溥儀が成婚間もない昭和 12 年に半年ほど居住していたという歴史的事実もあることから、稲毛の歴史を知る上で、非常に重要なものである。